

# EM活用で地域の活性化を願って

新潟県村上市 特定非営利活動法人 いわふね地域エコセンター

## 1. はじめに

村上市は人口約7万人新潟県の最北に位置し、自然に恵まれた観光都市です。かつては村上藩のお城があり、独自の文化圏をもった地域でした。今も旧村上の街中に武家町と町人町のなごりがあります。また皇太子妃雅子様のご先祖である小和田家ゆかりの地でもあります。自分たちの流域環境は自分たちで守るという意識が子供の時代から必要だと考えてきました。そして一番幸運であったことは最初からEMに出会ったことでした。幅の広い働きをする「善玉菌」を多くの人に知って使ってもらうことが大事だと思い理解してもらうよう努めてきました。これが現在私たちのできる一番の「地域づくり」と気付き活動中心になっています。



## 2. EMとの出会い

私達の活動のきっかけは「もったいない」からはじまり、生ごみをEMで堆肥にする方法を各町内を回って知らせることでした。行政の協力もあり、活動は順調に進みました。生ゴミをEMで堆肥を作り、プランターや家庭栽培に利用しています。畑を持っている人は当然であるが、プランターや麻袋に土を入れての家庭栽培を奨励することによって有機の栽培ができて健康にもいい。さらに、生ゴミ処理を各家庭で実践すれば市のゴミ処理の予算も節約できると考え、これを広めたいと活動しています。

平成6年から村上EM研究協議会を設立し、村上市環境課の協力で市役所に事務局おき、家庭や学校から出る生ゴミを堆肥化にする活動を本格的にはじめました。平成12年には非営利活動法人いわふね地域エコセンターを設立し活動の範囲を広げることにしました。



市役所屋上からみた役所前花壇 サケの親子



平成8年にEMのことをもっと広く市民に理解してもらうことが必要と考え、市の玄関である市役所の前に花壇をつくりました。「あしたの新潟県を造る協会」が主催する花いっぱいコンクールにいつも水やり作業などを協力してくれる四団体で応募してみました。結果は優良賞四つの中に村上が入りました。



### 3. 活動内容

普段は定例会を月に一度開きます。最近では写真がいっぱいの読みやすいエコ伝言板を発行しています。この伝言板を市役所の環境課の職員や市議会議員にも配ります。活動としては街中を流れる悪臭の放す川を改善するため、平成10年から川の沿線住民にEM活性液を年間50回毎週配ります。



今年は、大竜寺川の河口の舟だまりにEMダンゴを村上桜ヶ丘高校の野球部の皆さんに投げてもらいました。



それから、地元の漁師からは今年の猛暑でもメタンガスが発生しなかったと報告されています。活性液は92度ある瀬波温泉の熱を利用しているので毎週1トンくらい培養ができます。

学校のプール掃除の季節になると、市の教育委員会と話し合っ、各学校で「EMでの掃除方法」の説明をします。これで掃除の時間が短くなるのが楽しみだと学校職員に喜ばれています。村上市内18の小学校のうち、現在では16の小学校と他に2つの施設が実施しています。



春になると、農作業と環境学習の一つとして学校田を使わせてもらい、田植え、草取り、稲刈りを行います。作業をする前に農薬や除草剤を使わない環境を考えた農業について教室で行います。稲刈り時には自然の恵みに感謝するため、ささやかな収穫祭もしています。日頃の活動として、出前講座を行い、米のとき汁発酵液、ぼかし、EM石鹸の作りをしてまわります。大きな講習会としては年に一度、環境フェスタを市と協同で行います。約5000～6000人もの多くの来場者が足ををはこび、今年で10年目になります。今後の活動として、環境を改善する運動は、少年少女時代から身につけることが大事なので、積極的に学校にも働きかけます、また「地域は自分たちの力で守ることができる」という意識をもっと市民に広がるようなEM技術をベースにした活動を続けていきたいと思っています。

全国EM技術交流会より抜粋引用